

経営比較分析表（令和4年度決算）

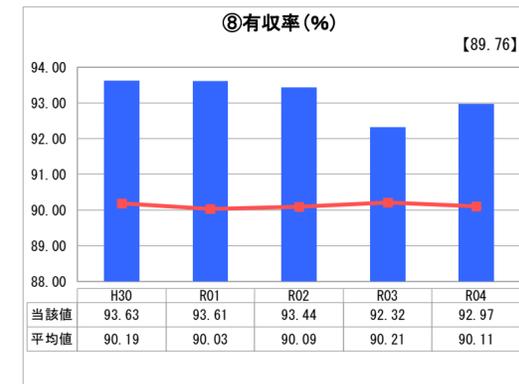
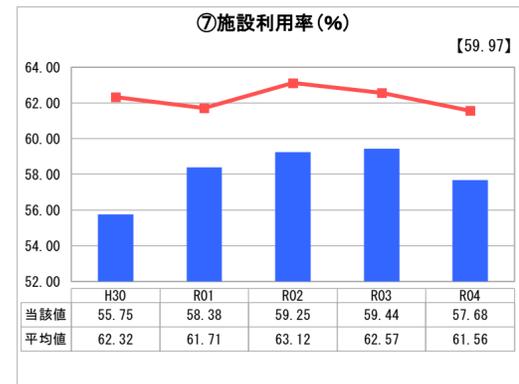
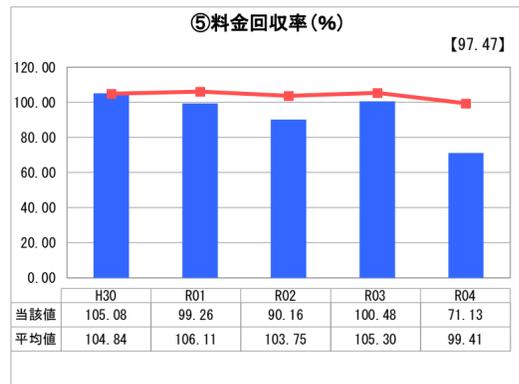
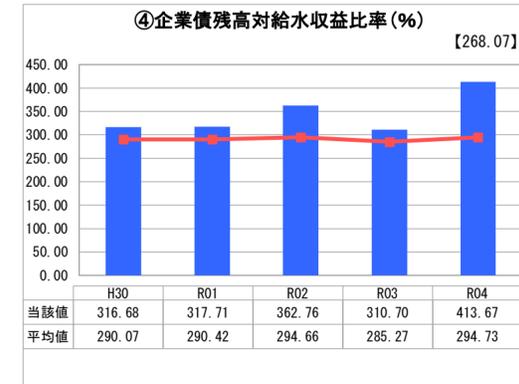
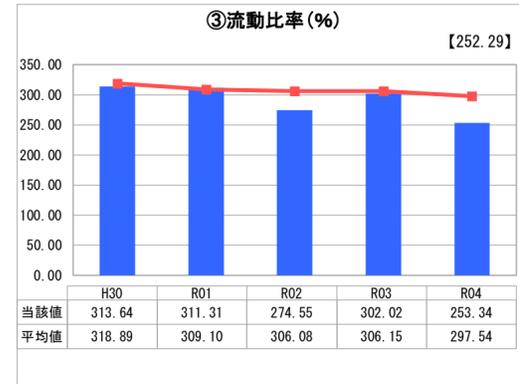
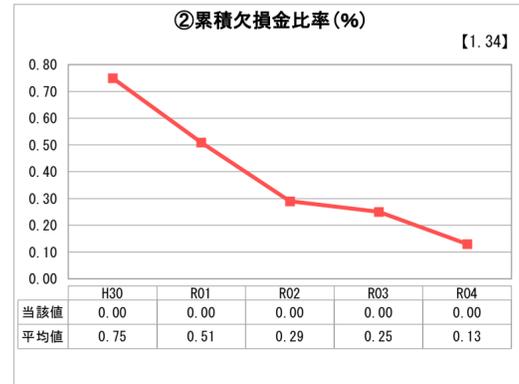
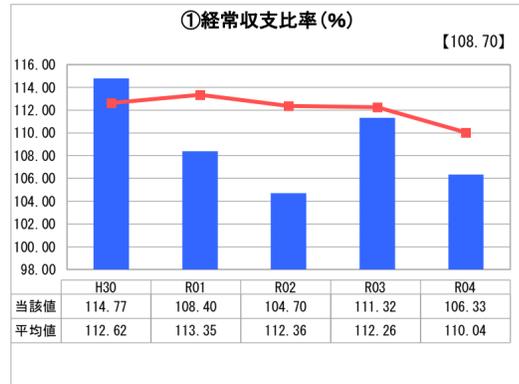
神奈川県 秦野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	69.83	99.90	1,870	

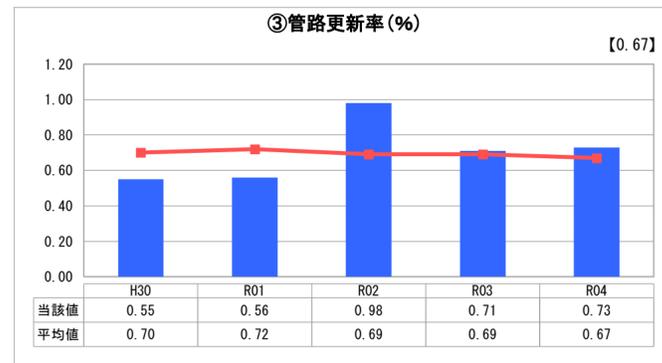
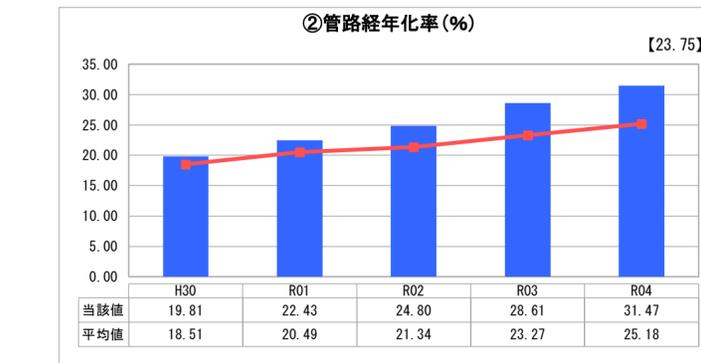
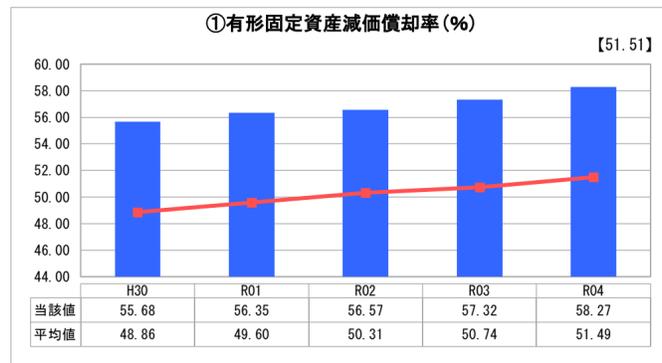
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
159,646	103.76	1,538.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
159,465	44.58	3,577.05

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、前年度比で4.99ポイントの減となったものの、100%を超えていることから、単年度収支は健全性を維持しています。
 しかし、施設の更新需要が増大している状況を踏まえると、十分な補填財源を確保する必要があり、引き続き同程度を維持しなければなりません。
 また、料金回収率は、経済対策として実施した水道料金の減額措置（10～3月検針分）の影響もあり、100%を下回りましたが、減額措置による減収分は、国庫補助金や一般会計の財政調整基金で補填されています。
 現在、人口減少などにより給水収益は減少傾向にあることから、継続的な経営の健全性確保のため、料金改定による供給単価の向上、また更なる効率的な給水を図ることで経常費用を削減し、給水原価の低廉化に努め、料金回収率の向上を目指します。
 次に、有収率は92.97%で、全国平均値を上回っています。
 引き続き漏水調査等を行い、有収率の維持・向上に努め、施設の稼働を収益に繋げられるよう、効率的な経営に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年化率は、いずれも全国平均よりも高い水準で推移しており、かつ増加傾向にあります。特に管路経年化率は31.47%と、前年度比で2.86ポイント増加しました。
 また、管路更新率は0.73%と、前年度比で0.02ポイント増加し、増え続ける更新需要に対して、令和4年度の更新量は全国平均より高い水準となりました。
 老朽化した水道施設の更新は喫緊の課題ですが、給水収益が減少傾向にあることを踏まえて、この課題解決に取り組む必要があります。限られた資金で施設を更新するためには、事業量の平準化を図るとともに、将来世代への負担に配慮し、企業債に依存しない資金調達が必要です。
 このことから、指標の劇的な改善は難しいものの、維持補修を行いつつ、引き続き計画的な施設の更新に努めていきます。

全体総括

人口減少などによる水需要の低下に伴い、給水収益は減少していく中で、高度経済成長期以降に整備した施設の更新需要に対応しなければならず、今後も厳しい経営環境が続くことが想定されます。
 そのような状況下における上下水道事業経営のあるべき姿と、具体的な行動を示す「はだの上下水道ビジョン」を令和3年3月に策定し、事業を展開しています。
 今後も、このビジョンに基づき直面する課題に着実に対応し、健全経営の持続に努めていきます。